



神奈川県議会議員 ● 安心・安全な社会をめざして

ほりえ則之県政報告

第35号 平成27年(2015年)1月23日(金) 発行人/ほりえ則之 〒243-0004厚木市水引2-12-36
☎046-222-1656 FAX046-225-1584 http://www.ayu.ne.jp/user.noriyuki e-mail:horie-noriyuki@ayu.ne.jp

事前キャンプやセレブレーションで大会をサポート

選手育成と観光戦略でも魅力発信

平成25年9月7日、2020年(平成32年)オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地が東京に決まりました。2020年には世界中から多くの人が日本を訪れ、それとともに世界中から多くのメディアがやってきて、日本の「現在」をレポートします。その際、都心からのアクセスが良好で、空の玄関口となる東京国際空港とも至近距離にある神奈川県は、

離にある神奈川県の魅力を見て、感じ、体験していただければ、自然と文化の豊かな国際観光地、先進産業の集積地としての神奈川県がプレゼンスが高まり、持続的に経済のエンジンを回すことが出来ます。

五輪のための神奈川ビジョン2020

県では平成25年10月「五輪のための神奈川ビジョン2020 推進本部」を立ち上げ、世界に発信していく神奈川の姿やオリンピック・パラリンピック東京大会に対する支援のあり方を検討してきました。2020年に

向けて世界に見せる神奈川県モデルは、①最先端医療と最新技術、未病を治す健康長寿日本一の神奈川県、②薄膜太陽電池、水素エネルギー、燃料電池や電気自動車など分散型エネルギーシステムの神奈川県、③「さがみロボット産業特区」など生活支援ロボットと共生する神奈川県、④歴史と文化、自然が満載したおもてなしの心あふれる国際観光地・神奈川県、⑤地震、津波、治安対策など安全で安心して過ごせる

厚木秦野道路 設計・用地説明会始まる

厚木秦野道路(国道246号バイパス、29.1km)の設計・用地説明会が昨年12月から始まりました。対象区間は県央厚木IC・JCTから仮称厚木北ICの区間で、12月10日から19日まで厚木市の根岸、三田宿舎、十日市場、田園、千頭上、千頭中下、及川一、及川二、及川三の自治会を対象に、国土交通省から構造や用地測量、用地補償に関する基本的な考え方が説明されました。

平成8年に都市計画決定、18年

12月、国土交通省から暫定2車線で整備、早期開通を図ることになり、平成23年度から順次予算を投入しています。26年度は27億円(秦野インターを含めると30億6千万円)が投入されます。この間25年8月には地元選出議員で構成する「厚木秦野道路建設促進協議会議員連盟」が発足、国へ要望書を出し、早期建設に向けた取り組みを行ってきました。

今後は道路用地幅杭の設置、測量・調査を経て地権者への補償、



売買契約を経て工事着手(暫定2車)、厚木秦野道路の建設が本格始動します。

神奈川一の5つを挙げています。

具体的な取り組みとしては、

改革力加速!

①大会をサポートする事前キャンプの誘致、ナショナルトレーニングセンターの誘致、パラリンピックの振興、大会ボランティアの育成、②神奈川ならではの観光魅力の創出、食文化などニーズや好みに応じたプロモーションと観光情報の提供、③県内の中高校生、大学生をターゲットにしたスポーツ選手の育成、「する」「みる」スポーツ参画社会の実現と障がい者・高齢者のスポーツ推進、④県民のだれもが国際感覚を持ち、健康でいきいきと暮らせる地域社会の創出など、さまざまなメニューを考えています。今後、市町村と一体となった支援体制を構築するとともに、大会組織委員会や東京都から要請があった場合には、迅速に対応できるように準備をまいります。

国道129号戸田交差点立体化工事

アンダーパスの本格工事始まる

戸田交差点の交通渋滞を緩和するため、国道129号が県道22号（横浜伊勢原線）をアンダーパスする「戸田交差点立体化工事」が本格的に始まりました。県では一昨年、戸田交差点前後の車線の切り替えを実施、仮設土留壁の設置工事に着手したほか、昨年1月、交差点北側の戸田歩道橋の架け替え

工事を完了させ、南側（平塚側）を中心に、アンダーパスの本体工事が始まりました。

また、国道129号は新東名高速道路への接続道路となるため、交差点の立体化とあわせて「厚木南IC（仮称）」料金所から129号線までの接続区間についても、

2期工事順調に進む

県道座間荻野線

県が整備を進め、新東名の供用に合わせた平成28年度の完成を目指しています。

県道42号（藤沢座間厚木）の都市計画道路座間荻野線の整備（4車線22m）は、第1期工事区間が平成25年3月27日に供用開始されたのともない、平成25年度から第二期工事に着手しています。区間は厚木バイパス線から三田小学校を経て県道63号（相模原大磯）との交点に至る約1・2km。起点側の約0・4kmについては、第1期区

間に続き橋りよう構造で、その先の県道63号（相模原大磯）までの約0・8kmについては、平面構造となります。平成32年度の供用開始を目指しています。

同路線は厚木市の外郭環状の一部を形成し、国道129号や国道246号など、厚木市街地に集中する交通を分散し、交通の円滑化を図るとともに、県央地域の東西方向の連携強化を図るものです。

ハツ橋架け替え工事

県道相模原大磯線

県道相模原大磯整備事業は、白山交差点から愛名やまゆり園までの1・38kmを、車道6m、両側歩道2・5mを設置して歩車道分離を進めるもので、平成30年度の完成を目指しています。同路線は近

隣小学校の通学路に指定されているにもかかわらず、一部区間で歩道が未整備、とりわけ恩曾川に架かる「ハツ橋」については、大型車のすれ違いが困難なほど狭小で、地域から改善が求められています。今年度、懸案となっていた「ハツ橋」地区の橋梁架け替えと歩道の整備が完了します。

第3期工事本体完成

県営緑ヶ丘団地

県営緑ヶ丘団地の建て替え工事は第1期（36戸）、第2期（36戸）が完成、平成26年度は第3期（40戸）の工事に着手、本体工事が終了し年度末までには完成します。総計画個数は196戸で、第4期（40戸）、第5期（44戸）まで順次建て替えが行われる予定です。



完成予想図（平塚側から戸田交差点方向を望む）



橋梁整備が進む座間荻野線の第2期工事



県道相模原大磯線・恩曾川のハツ橋架け替え工事



第3期の本体工事が完了した緑ヶ丘団地

金田地区の道路改良 県道酒井金田線

県道601号(酒井金田)と国道129号及び国道246号が交差している金田交差点は、朝夕に慢性的な交通渋滞が発生、交通の円滑化を図るため、右折レーンの新設や歩道の整備等の交差点改良工事を行っています。

昨年11月5日、金田上部自治会館で道路改良事業にかかわる事業説明会が開かれ、平成26年度の施工方法と今後の延伸計画について説明が行われました。

事業は現況8・95mの幅員を歩車道分離の16mに拡幅するもので、すでに東側は施工済みで、今年度は金田交差点から西側(妙純寺側)140mを整備、さらに540m



今年度金田交差点から西側140mを整備

南に延伸する予定です。また、元町交差点から市営プール交差点までの東側は整備が完了し、今後、西側についても改良工事を進めます。

念願の硬式野球場完成 猿ヶ島硬式野球場

厚木・愛甲地区には県立高校が7校もありますが、高校生が利用できる硬式野球場がないため、厚木市内では長い間、プレーができない状況が続きました。このたび相模川流域下水道汚泥貯留地の上部を有効活用するため進めていた「猿ヶ島硬式野球場」が完成し、高校生にとってはこの上ない喜びとなりました。

昨年11月15日、同球場の完成記念式典が行われ、県、市、地元自



完成記念式典であいさつする堀江県議

治会、野球協会などの関係者が出席して、完成を祝いました。

同球場は平成19年度に着工、財政的事情で完成が大幅に遅れましたが、一昨年4月、防球ネット工事を残して供用開始。昨年度に続いて今年度防球ネット工事が完了したため、体育館やテニスコートなどの完成を含めた集大成として完成記念式典が行われました。式典ではあゆこちゃんによる始球式、県立厚木北高校と西高校によるオープン試合が行われました。

三川〜東名高速道路まで 相模川右岸散策路整備

相模川右岸の散策路整備は、小田急線から上流が完成、平成26年度は東名高速道路から上流480メートルの散策路整備が完了しま



平成27年度に整備が行われる岡田地先

す。今後は旭町4丁目の厚木ガスから下流250メートルの未施工区間に着手、平成27年度以降早期の完成を目指します。これにより相模川の三川合流点から東名高速道路までの散策路がすべてつながり、ウォーキングやジョギングコースとして活用されます。

流れ変える工事 三川土丹出現問題

相模川の三川合流点の右岸河原の砂利が流出し、土丹(粘土質の固い河床)が出現して鮎などの漁業資源や親水空間の維持に支障が出ている問題で、県では平成25年度に続いて26年度も本流の流れを変える工事を行っています。現在、礫河原の再生を目指す工事が行われています。



護岸を守るテトラポッドの工事(三川合流点)

生活支援ロボットの实用化へ向け

さがみロボット産業特区実証実験始まる

神奈川県では「さがみロボット産業特区」の取り組みによって、生活支援ロボットの实用化を通じた安全・安心の実現を目指しています。特区の重点プロジェクトとしてこれまでに「公募型ロボット実証実験支援事業」と特区の重点プロジェクト実証実験を合わせて、16件のロボット実証実験を行っています。



2足歩行型ロボットアツモ

厚木では、中小企業や大学などが連携して運動麻痺のあるリハビリテーション患者の手指の動きをアシストする「パワーアシストハンド」(LLPアトムプロジェクト)が実証実験を経て、製品化に成功

製品化に成功したパワーアシストハンド

しました。また、あゆこちゃん型の等身大二足歩行ロボット「アツモ」(あつぎものづくりブランドプロジェクト)の製作にも取り組んでいます。

県ではこうした実証実験を進めるとともに、ロボット関連産業を支援する「インベスト神奈川2ndステップ+(アップ)」で、平成25、26年度で8社を認定、投資額は70億円となりました。うち厚木市内では1社が認定され6億円の投資額が決定しています。

鮎と夢末市で誘客作戦 いいじゃん神奈川観光ツアー

神奈川県は森・山・川・海の大自然や歴史、文化などの魅力的な観光資源があふれています。横浜、箱根、鎌倉といった有名な観光

光スポットの他にも大山、城ヶ島、大磯などが注目を集めています。

厚木エリアにおいても豊かな観光資源を活用した「いいじゃん神奈川観光ツアー」が企画され、昨年10月5日、12日、JAあつぎと厚木観光漁業協同組合による相模川の鮎を活用した着地型ツアーと夢末市立ち寄りツアーが行われました。

この日は東海大学の学生を主とした約40人が大型バスで厚木を訪れ、同市温水の「夢末市」で、厚木観光漁協が炭火焼きした鮎の実際販売と、夢末市の生産物を見学しました。訪れた学生たちは「アユは食べたことがない」などと話し、こんがり焼きたがった鮎の味覚を堪能していました。県では今後も「いいじゃん神奈川観光ツアー」を支援していく考えです。



鮎の塩焼きに舌鼓を打つ観光客

小鮎川河川整備事業



厚木市飯山地区の栗矢橋を起点とした右岸上流480mを、ブロック貼護岸工事と3mの管理用通路を設置します。平成25年度から順次用地買収を進め、28年度に計画区間の約2分の1を、30年度までに全線を整備する予定です。

土石流対策砂防工事



七沢地区の山の神沢では、土石流による災害を防ぐため、4基の砂防堰堤の整備を進めています。平成13年度に1号堰堤、平成21年度には2号堰堤が完成し、現在3号堰堤を整備しています。

交通安全対策



厚木中央公園西側の「厚木第一歩道橋」を撤去して、西側と南側にも横断歩道を新設、歩道を整備して平成25年度交差点のバリアフリー化、26年度に視覚障がい者のために信号機を音声にする横断歩道を整備しました。